



国立大学法人

筑波技術大学

日本でただ一つの聴覚障害者、視覚障害者のための国立大学です。



令和8年度職員募集案内

INDEX

学長メッセージ	1
筑波技術大学について	2
事務組織と業務内容	2
職員インタビュー	3
教育研究組織について	6
勤務条件等	8
2つのキャンパス	10
アクセス	11
採用担当係から一言	11

学長メッセージ



国立大学法人筑波技術大学 第4代学長 石原 保志

筑波技術大学は、聴覚障害者、視覚障害者のための高等教育機関として1987年に三年制短期大学として設立され、2005年に四年制大学となり現在に至っております。教育に関しては、少人数教育の下、多様な発達の特性の学生の実態に即した学修者本位の教育が、授業だけでなく学生生活の様々な場面で展開されています。

近年、大学に進学する障害者の数は増加の一途を辿っており、障害学生が学ぶ高等教育機関では合理的配慮を具現化する方策が検討、実施されるようになってきました。このような社会的変化の中で、筑波技術大学の教育における強みは何か。それは、他大学が障害学生の学修、学生生活における活動参加上の不利益を補うことを、いわゆる障害学生支援と位置づけているのに対して、筑波技術大学は障害を補償するだけではなく、学生の潜在能力を顕在化させ、知の基盤となる情報を意図的に付加するといった“教育的支援”を行っているということです。聴覚や視覚に障害がある学生に情報を確実に伝達する、情報を知識として吸収し多分野の知識を統合する、そして知識を知恵に昇華させていくという、教育の本質的役割あるいは機能を、筑波技術大学では特に意識して実践しています。この実践を通して培われた知見は、本学の研究を通して社会に公開されており、また本学が中核となって行っている他大学の障害学生支援に役立てられています。

令和7年度からは新たに「共生社会創成学部」が設置されました。職場や地域社会で、自分自身の能力を発揮するための環境整備に貢献する障害者を育成する。そのような人材の活躍を通して、障害者を含む多様な人々が真に参画できる社会を構築していく。本学はそのようなダイバーシティ＆インクルージョンの拠点となります。

最後に、障害者のために創られた我が国唯一の大学である筑波技術大学の職員として、みなさんとともに働くことができる日を楽しみにしています。

筑波技術大学について

筑波技術大学は、聴覚・視覚障害者のための我が国唯一の高等教育機関として、これからの知識基盤社会に対応するため、個々の学生の障害特性に配慮した教育を通じて、幅広い教養と専門的、応用的能力をもつ専門職業人を養成し、両障害者が社会的自立を果たし自ら障害を持つリーダーとして社会貢献できる人材の育成を図るとともに、新しい教育方法の研究と実践を通して国内外の障害者教育の発展に資することを基本的な目標としています。

この基本的な目標を踏まえ、高等教育の内容に関わる各専門分野の研究の推進を図るとともに、最新の科学技術を利用して聴覚・視覚の障害を補償する教育方法・システム等を開発し情報授受のバリアのない教育環境の構築に努めています。

また、聴覚・視覚障害学生を受け入れている他大学等に対する支援や、世界各国の高等教育機関との障害者に係る教育研究に関する国際交流活動等を推進し、さらに、東洋医学と西洋医学を統合した教育研究を推進するとともに、特色ある医療活動を通じて地域医療に貢献することを目指しています。

事務組織と業務内容

本学は、職員数も少なく小さな大学ですが、業務内容は、総合大学や他大学等と比べても変わりません。1つの部署において、様々な業務に携わり学ぶことができるのは筑波技術大学の魅力の1つです。

事務局	大学戦略課	企画戦略、大学評価、総務、人事、広報、情報ネットワーク、研究支援等の事務
	財務課	予算・決算、出納、契約、施設整備、東西医学統合医療センター等の事務
	聴覚障害系支援課	天久保地区における学生、教務、入試、図書、情報保障支援、教材作成支援、障害者高等教育研究支援センター、保健管理センター及び産業技術学部の諸会議に関すること
	視覚障害系支援課	春日地区における学生、教務、入試、図書、情報保障支援、教材作成支援、障害者高等教育研究支援センター、保健管理センター及び保健科学部の諸会議に関すること

詳細は、次ページ以降の職員インタビューをご覧ください。なお、所属等はインタビュー作成時のものです。

職員インタビュー

筑波技術大学を志望した動機を教えてください。

学生時代に職員の方々に支えられた経験から、今度は自分が学生を支える立場として働きたいと考えていました。数ある大学の中でも筑波技術大学は視覚障害者・聴覚障害者のための大学という独自性があり、また小規模大学のため様々な業務に携われるという点に魅力を感じ、志望しました。

現在担当している業務は何ですか？

産業技術学部の商品調達や役務の契約に関する業務を担当しています。具体的には、契約手続きや業者との調整、契約書の作成・管理などを行っています。

仕事を進める上で、心掛けていることはありますか？

何事もまずは自分でやってみることを心掛けています。そのうえで、分からないことや自分だけで解決できないことがあれば、抱え込まずに周りの先輩に相談し、アドバイスをもらいながら進めるようにしています。

令和7年度採用 財務課契約係



業務終了後や休日はどのように過ごしていますか？

最近自炊を始めたので、業務完了後は料理をして過ごしています。まだ簡単なものしか作れませんが、新しいレシピに挑戦したり、自分の好きなものを作ったりする時間が良い気分転換になっています。休日は趣味の観劇に出かけることが多く、お気に入りの作品を観て、日々のエネルギーをもらっています。

筑波技術大学職員を目指す方へメッセージをお願いします。

入職前は「大学職員＝窓口対応」というイメージを持っていましたが、実際には幅広い業務があり、多くの学びや成長の機会があると感じます。最初は分からないことばかりでしたが、周りの先輩が丁寧にサポートしてくれるので、安心して働くことができます。ぜひ応募してくださると嬉しいです。

平成 29 年度採用 視覚障害系支援課教務係



担当している業務は何ですか？

主に入学者選抜、いわゆる入試関係や、オープンキャンパスなど受験生の募集関係を担当しています。学生支援系の部署でもあるので、窓口対応も行っています。

普段の業務もやりがいがありますが、特に近年は、学生募集系の業務の一環として大学全体の広報に携わらせてもらえることもあります。自分の業務が大学全体の動きに少しでもつながっていることを意識できることが多くなってきて、仕事をしながら楽しさを感じるが増えつつあります。

筑波技術大学を志望した動機を教えてください。

もともと視覚障害学生が在籍する春日キャンパスの近くに住んでいて、視覚障害の学生をよく見かけていました。正直なところ、気になって調べるまで大学の存在すら知らなかったのですが笑、

視覚障害・聴覚障害者のための大学という他とは一味違う存在感に惹かれ、就職を決めました！

筑波技術大学の魅力は何ですか？

視覚／聴覚障害学生や教員と身近にコミュニケーションできるため、コミュニケーション方法や考え方を実践的に身につけられることが魅力の一つです。

本学で働くまでは視覚障害や聴覚障害のある方とやり取りする機会はほとんどありませんでしたが、研修で点字や手話を学んだり、学生対応の中でそれらを実際に使ったりすることで、限定的ではありますがそういった知識・経験を得ることができます。

また直接学生に関係しない業務や日常の場面であっても、「視覚障害や聴覚障害に対応できているか？」という視点が優先的に出てくるようになりました。こういった感覚は本学でこそ養えたものだと思います。



一番印象に残っている仕事はなんですか？

採用2年目、聴覚障害系支援課のお仕事で、海外の大学との国際交流協定更新のために学長と国際交流担当委員長の海外出張に同行したことを今でもよく思い出します。プライベートも含めて初めての慣れない海外出張ということもあり緊張しっぱなしで、学長たちの足を引っ張ってしまったのでは…と反省点ばかりでしたが、レアな経験ができたと思っています。

小規模大学ゆえにこういった機会に巡り合うことがあり（海外出張はそうそうないですが）、系の通常業務範囲にとどまらない、さまざまな経験を積めることが本学ではたらく魅力の一つだと思います。

平成 27 年度採用 聴覚障害系支援課 教務係主任

担当している業務は何ですか？

聴覚障害系支援課教務係で、主に国際交流、大学院関係業務のとりまとめ、大学院技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻や障害者高等教育研究支援センター関係業務、大学入学共通テストなどを担当しています。様々な先生方と接する機会があるため、中には聴覚や視覚に障害のある先生もいらっしゃいます。手話通訳の手配を依頼したり、読み上げソフトに対応した資料を提供したりと、情報保障の配慮が必要な場面が多々ありますが、それが本学の大きな特徴の一つです。

まだ学内の人事異動後 3 か月余りですので慣れない部分もありますが、周りの方に助けていただきながら業務に取り組んでいます。



業務終了後や休日はどのように過ごしていますか？

ここ 1 年は職場の先輩に勧められた韓国ドラマをきっかけに、韓国の文化に触れることが多くなりました。通勤の車の中でハングルのラジオ講座を聞き、職場の先輩と一緒にソウルに旅行に行きました。仕事のことでも親身に相談に乗ってくれた先輩とこういった形で仲良くなることができ、また結果的に、ハングルが少し読めることでいま担当している国際交流の業務にも多少活かせる部分があるので一石二鳥です。（写真右が筆者）



仕事と家庭の両立の秘訣はなんですか？

私の場合、必ずしも仕事と家庭の両立をできているとは言えない部分があると思いますので、あくまでも一例として記載します。（我が家の家族構成：私、夫、未就学児 1 人）

育児休暇からの復帰直後は、子供が生まれる前よりも仕事にかけられる時間が減ったことにより仕事のやり方もマインドも変えなければならず、それがなかなか難しかったです。活用できる制度、例えば育児短時間勤務（1 日 2 時間まで、無給）、子の看護休暇（年 5 日まで、有給）、在宅勤務制度などは全て活用したと思います。仕事と家庭の両立に悪戦苦闘する中で、話を聞いてくださる教職員の皆さんに恵まれ、協力をいただきながら何とか今までやってこられました。私自身で工夫したこともあります。周りの皆さんとどのようにチームで業務を遂行できるかが重要なポイントだと思います。



教育研究組織について

産業技術学部

聴覚障害者を対象とする高等教育機関として、「情報処理」「ものづくり」「生活環境創り」を通して社会に参画・貢献できる専門業人の育成を図ります。また、各専門分野の研究及び教育方法・機器等の開発により教育の改善に取り組みます。

産業情報学科、総合デザイン学科



保健科学部

視覚障害者を対象とする高等教育機関として、技術革新や情報化、国際化が進む社会にあって、それらの変化に柔軟に対応できる専門的医療技術者及び情報技術者の養成を目指すとともに、健康や福祉に貢献できる専門家を育成します。令和8年4月より、新たに保健学科に、健康スポーツ学コースを新設しました。

保健学科（鍼灸学コース、理学療法学コース、健康スポーツ学コース）、情報システム学科

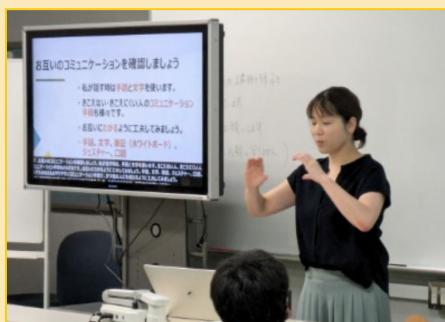


共生社会創成学部

【令和7年4月設置】

本学で初めて、聴覚障害コース、視覚障害コースをどちらも持つ学部です。組織や社会において共生社会（多様な人たちが、積極的に参加・貢献していくことができる全員参加型の社会）の実現を推進しようという考え方が広がっていますが、現状の制度や社会意識には、今なお障害者の社会参加を阻む障壁が残されています。共生社会創成学部では、情報アクセシビリティに関する情報科学と障害社会学の知見を体系的に修得し、障害当事者の視点から共生社会の創成に取り組む人材を育成します。

共生社会創成学科



大学院技術科学研究科（修士課程）

大学院技術科学研究科は、聴覚・視覚障害者のための大学院として、障害がありながらも産業技術や医療技術に関するより高度で専門的な知識・技術、応用能力、研究能力を備え、企業や医療現場などの要請に積極的に応え貢献できる専門技術者・研究者・指導者を養成するとともに、地域社会や職場において聴覚・視覚障害者のリーダーとして活躍できる人材を育成します。



産業技術学専攻、保健科学専攻、
情報アクセシビリティ専攻

障害者高等教育研究支援センター

障害者高等教育研究支援センターは障害者基礎教育研究部と障害者支援研究部を持ち、教養教育の編成と実践を行うとともに、障害補償システムの研究・開発及び障害者の能力開発に関する研究を進めています。学内の情報保障や学修支援にとどまらず、聴覚及び視覚に障害のある学生が在学する全国の大学や機関へ助言や支援を行っています。聴覚障害学生の支援体制向上のため各大学からの相談受付や研修開催等を行う拠点形成事業、書籍や大学等で使用する教材・学修資料の点訳や拡大文字等へのメディア変換を行って提供しているアクティブラーニング環境構築事業など、全国の高等教育機関を対象としたさまざまな事業を行っています。



勤務条件等

1. 給 与

- (1) 初任給（月額、地域手当含む）：269,100 円
(学歴、職歴等によりこの額より高くなることもあります。)
- (2) 期末・勤勉手当（ボーナス）：6 月、12 月の年 2 回
- (3) 諸手当：扶養手当、住居手当、通勤手当等

2. 勤務時間等

- (1) 8 時 30 分から 17 時 15 分（昼休み：12 時から 13 時）
- (2) 休日：土、日、祝日、年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日）
- (3) 有給休暇：年次休暇、特別休暇（リフレッシュ休暇、結婚、子の看護等、介護等）
- (4) 育児休業、介護休業、自己啓発休業等
- (5) その他：試用期間（6 か月）、夏季一斉休業、育児のための短時間勤務制度

3. 宿 舎

- ・つくば駅（つくばエクスプレス）から徒歩約 20 分の場所に宿舎があります。
(※大学からは、車で約 10 分)

4. 福利厚生

- ・天久保、春日両キャンパスにそれぞれ、看護師が常駐し健康に関する相談に対応しています。また、非常勤のカウンセラーを配置し、教職員の心のケアにも配慮しています。
- ・福利厚生事業の一環として、映画鑑賞券やレジャー施設入園券等の購入補助やインフルエンザ予防接種の費用補助を行っています。
- ・図書館等の学内施設を利用することができます。



5. 能力開発

職員の能力向上を目的とするSD（スタッフ・ディベロップメント）研修を実施しています。

一般的な知識を身に付けるハラスメント防止研修、メンタルヘルス研修、ワークライフバランス研修等のほか、新任職員向けとしてビジネスマナー研修や大学マネジメント研修を行っています。

また、聴覚及び視覚に障害のある学生や教員と円滑なコミュニケーションが図れるよう聴覚障害者支援研修並びに視覚障害者支援研修を実施しています。



聴覚障害者支援研修

聴覚に障害のある学生と日々接している本学の教員を講師として、手話に関する基礎知識の他、実際に業務で想定される学生との会話（手話）について学びます。

視覚障害者支援研修

点字の仕組みや読み方、点字タイプライターの使用方法に加え、障害のある人にも見えやすくするための機器や、誰にでもわかりやすいユニバーサルデザインの例などについても学びます。



相談員傾聴スキルアップ研修

学生及び教職員の相談窓口である相談員が実際に相談を受けた場合を想定したロールプレイングを通じて対応方法などについて学びます。

2つのキャンパス

本学は多くの研究・教育機関が集積する茨城県つくば市に2つのキャンパスを持ち、職員はどちらかのキャンパスで勤務することになります。

天久保キャンパスには主に聴覚障害者を対象とする産業技術学部があり、春日キャンパスには主に視覚障害者を対象とする保健科学部があります。

両キャンパスは車で5分ほどで行き来することができます。



天久保キャンパス

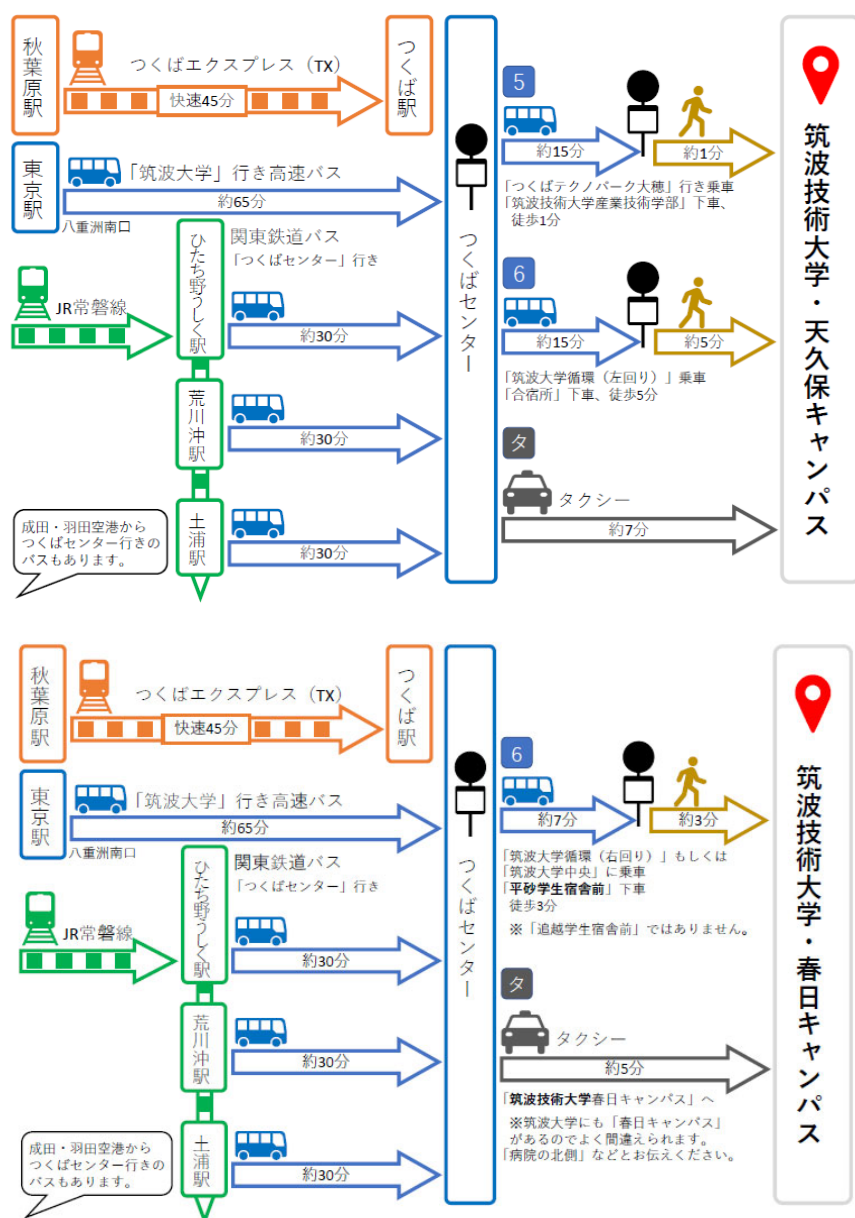
茨城県つくば市



春日キャンパス



アクセス



採用担当係から一言

皆さんは筑波技術大学についてどれくらいご存知でしょうか。

「試験を受験するまでよく知らなかった」という方もいらっしゃるかもしれません。

本学は聴覚及び視覚に障害を持った学生を、社会に貢献できる一員として養成するために設置された教育機関です。

毎年多くの学生が本学で成長し、自分の可能性を高めて旅立っていきます。多くの人材を社会へ送り出し続けていることは本学の理念であり誇りです。もちろんこれ以外にも本学の社会的需要や役割は数多くあります。

これらの社会的要求の数々をやり遂げていくには、皆さんの助力が必要不可欠です。

筑波技術大学は、皆さんの能力を十分に発揮できるフィールドを用意してお待ちしております。



国立大学法人

筑波技術大学

National University Corporation Tsukuba University of Technology

《採用担当》

筑波技術大学 大学戦略課人事係

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

TEL:029-858-9308, 9309

FAX:029-858-9312

E-Mail: jinji@ad.tsukuba-tech.ac.jp

<https://www.tsukuba-tech.ac.jp/>